

福島県病害虫防除所より3月23日付けで「令和2年度病害虫防除情報」が発表されました。昨年9月の調査では、新梢葉でのモモせん孔細菌病の発生は県内全域で平年より多く、伝染源である春型枝病斑の発生量は多いと予測されています。

また、果樹研究所では、せん孔細菌病の春型枝病斑の初発生は3月22日（昨年3月23日）に確認されました。

春型枝病斑の早期発見とせん除を徹底し、病原菌の初期密度の低下を図りましょう。また、開花直前および落花直後の防除が遅れないように注意しましょう。

1 モモせん孔細菌病の発生状況

昨年9月の調査では、新梢葉での発生は場割合は平年より高く、発病葉率も高い状況でした（図1）。

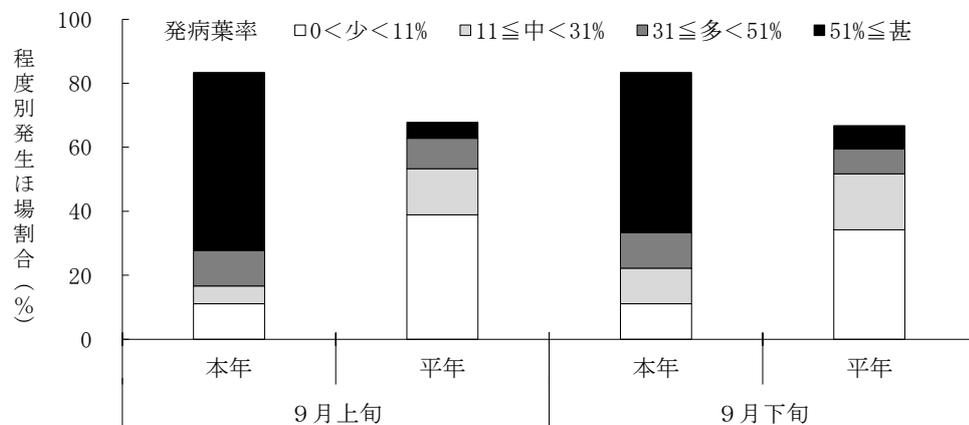


図1 新梢葉での発生状況（2020年9月上旬および下旬）
（調査地点：福島地区9園地、伊達地区9園地、平年：過去10年の平均）

2 防除対策

仙台管区气象台発表の東北地方の1か月予報（令和3年3月18日発表）では、今後の気温は高く、降水量は平年並または多いと予想されています。

果樹研究所におけるもも「あかつき」の発芽は、3月16日で平年より8日早まりました。また、3月19日現在の発育予測では、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合は「あかつき」の開花始めが4月6日頃で平年より7日早いと予測されます。なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により変動することがあるため注意が必要です。

生育の進みに合わせ、耕種的防除と薬剤防除を徹底し、病原菌の初期密度の低下を図りましょう！また、病原菌は降雨で拡散するため、防除対策は降雨前に確実に実施しましょう！！

(1) 耕種的防除

- ・**春型枝病斑は開花前から発生することがあるため、3月下旬からほ場内をよく観察し、枝病斑を見つけ次第、疑わしい枝も含めて、徹底してせん除しましょう。**
- ・開花前の無機銅剤の散布によって病斑の発見が困難となる場合は、芽や新梢葉の発育不良や枝表面の黒変を目安に病斑を見つけましょう（図2、図3）。
- ・春型枝病斑の発生は長期間にわたるため、**せん除は定期的に複数回実施しましょう。**
- ・春型枝病斑をせん除する場合は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて**可能な限り基部から切り戻しましょう（図4）。**
- ・春型枝病斑が樹冠上部に発生した場合は、その直下で被害が大きくなるので、見落とさないよう注意しましょう。

(2) 薬剤防除

- ・生育が早まっているため、防除が遅れないように注意しましょう。
- ・薬剤の使用濃度、収穫前日数に十分注意しましょう。また、同一薬剤の連用は耐性菌が出現するリスクが高まるので、連用せずに薬剤のローテーションにより防除を行いましょう。

～春型枝病斑の特徴と見分け方～

- 枝の表面が黒ずみ、やがて亀裂が生じて凹む
 - 新葉が赤っぽくなる
 - 新梢葉の伸びが悪い（部分的に芽が枯死している）
- などの症状がみられた場合は、春型枝病斑の可能性が高いため見つけしだい切除しましょう！



芽の生育不良

枝に葉斑が付着したことにより
発見が困難な春型枝病斑

図2 無機銅剤散布後の春型枝病斑



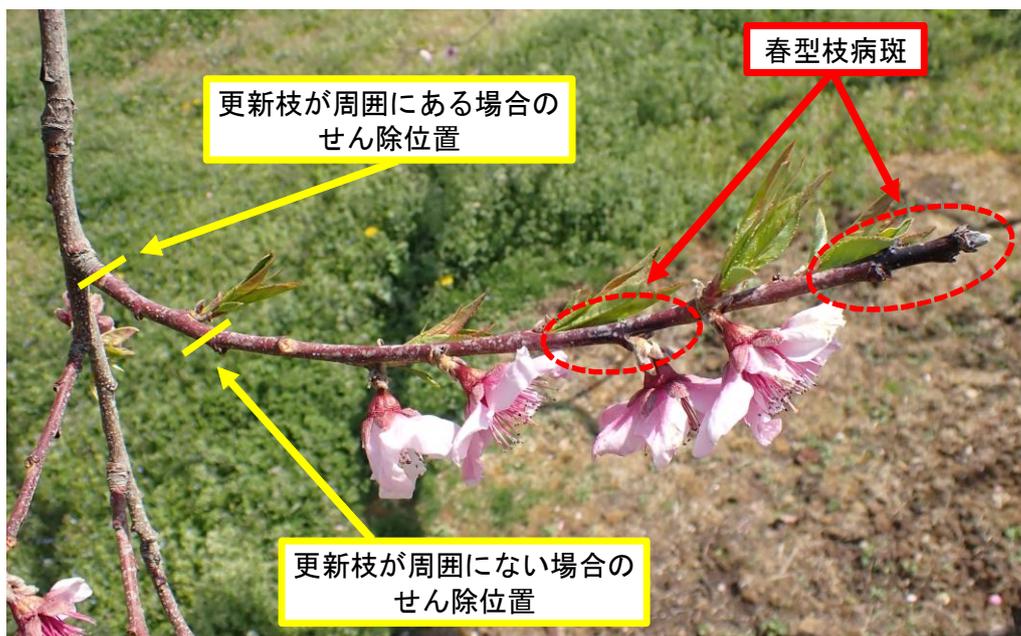
新梢葉や芽の
生育不良

枝表面の
黒変

健全な一年枝

発病した一年枝

図3 春型枝病斑の特徴と見分け方



更新枝が周囲にある場合の
せん除位置

春型枝病斑

更新枝が周囲にない場合の
せん除位置

図4 春型枝病斑のせん除位置

写真提供：福島県農業総合センター果樹研究所

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>